

アズパパの屋根裏部屋

Small Loft of AzuPapa

テクニカルメモ

No.1 「革のつなぎ方」の視点からレザーアイテムを考える

2018年7月

アズパパ

革で“袋もの”の作品を作る場合、一般的には何枚かの革のパーツをつなぎ合わせるという工程を避けることができない。ここで視点を少し変えて、避けることができないという半ば消極的な見方を捨て、“革をつなぐ”という行為をより積極的に活用してみたらどうだろうかと考えた時、違う発想が生まれた。“つなぎ目にデザイン性を持たせる”という発想である。

デザインとしてのつなぎ目ならば、バッグの前面をつなぎ目が横切ってもよいし、小さな革のハギレも、“デザインとしてつなぐ”ことで、使い道が広がってくると考えたわけである。

このメモでは、上述した視点に基づき以下の三種類の革のつなぎ方についてその概要を述べる。つなぎ方の名称は筆者が独断で呼称しているものであることをお断りしておく。

- ① 交差つなぎ
- ② ひも結びつなぎ
- ③ パッチつなぎ

1. 交差つなぎ

写真-1a, 1b, 1c に交差つなぎのサンプルを示す。

最も基本的な交差つなぎは、等間隔に穴をあけた2枚の革を互いに穴が開いている位置とそうでない位置を相対させて、革同士が交差するようにつなぐものである。通常は片側の革は穴だけをあげ、他方は穴をあけた後に切れ目を入れ、交差させた後に糸で縫って連結させる。(写真-1c) 経験的な評価ではあるが、こうすることで、交差つなぎは通常の使用に十分耐えうる引張強度を持つようになる。

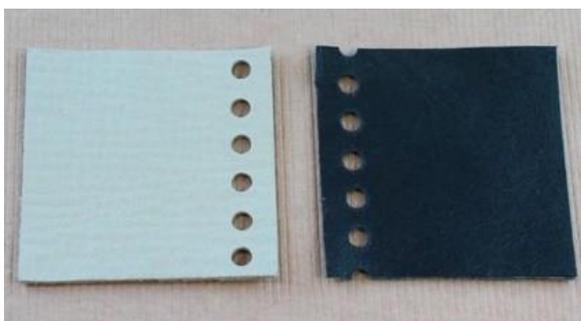


写真-1a 交差つなぎ つなぐ前



写真-1b 交差つなぎ つないだ表面

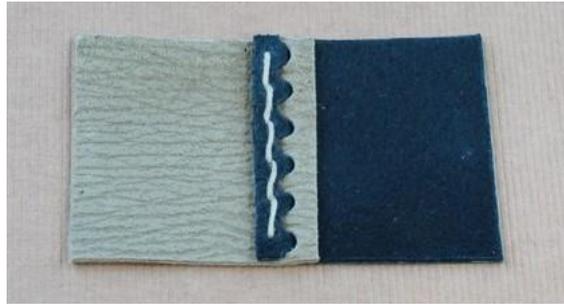


写真-1c 交差つなぎ つないだ裏面

交差つなぎは、つなぎ目にデザイン性を持たせることができる利点の他に、もう一つ大きな利点がある。それは、比較的厚い（厚さ2mm程度）革同士でも、ほぼフラットにつなぐことができる点である。このことにより、平面上で革をつなぐ場合でも、なめらかにかつデザイン性を持たせたつなぎ目を演出できる。

写真-2に交差つなぎによるコインケースの例を示す。ここでは前面と側面の2か所に交差つなぎを採用しているが、側面の交差つなぎはコインケースに厚みを持たせる効果を発揮しており、前面では2種類の色の違った革を黄金比を考慮した位置でフラットにつないでいる。こうすることで、カバーの黒との対比やバネホック（止め金具）の色選択の際などに表現の幅が広がってくると考える。



写真-2 交差つなぎの作例

2. ひも結びつなぎ

写真-3a, 3b, 3c にひも結びつなぎのサンプルを示す。

ひも結びつなぎは、江戸打ちひもなどのひもを、革をつなぎながら組みひも状に結んでいくものである。つなぐ双方の革には等間隔で穴をあけておき、ひもを穴に通しながら結んでいくという仕組みである。

革をつなぐことと最も相性のいいひもの結び方は現時点では“平結び”であろうと考えている。筆者は組みひもに精通していないため、この点は今後の課題である。

ひもの結びは“和”の風合いが感じられる。一方、革は“洋”の風合いが強い素材であるとするれば、このつなぎ方は“和”と“洋”の面白い組み合わせを演出することができると期待される。

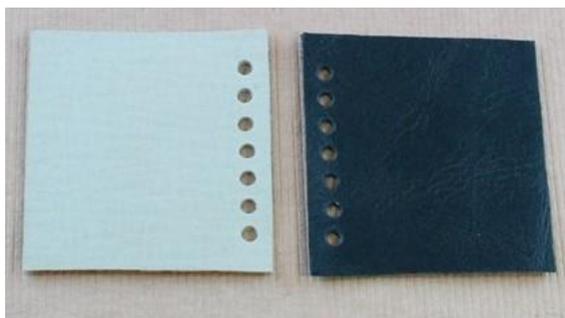


写真-3a ひも結びつなぎ つなぐ前



写真-3b ひも結びつなぎ つないだ表面



写真-3c ひも結びつなぎ つないだ裏面

写真-4 に、ひも結びつなぎを用いたポーチの例を示す。これは前面の革のつなぎ目の一部にひも結びつなぎを取り入れることで、和の巾着袋を連想させようと意図した作品である。



写真-4 ひも結びつなぎの作例

3. パッチつなぎ

写真-5a, 5b, 5c にパッチつなぎのサンプルを示す。

パッチつなぎは、2枚の革の端部を5mmほど重ね合わせて、糸で交互にジグザグに縫っていく方法である。特殊な方法ではないが、種々雑多な革ハギレで作品を構成するときには効果を発揮すると考えている。

先に述べた二つのつなぎ方には、穴の位置など幾つか守るべき規格があるが、このパッチつなぎは、特別な規格はなく、その分自由度が高い。

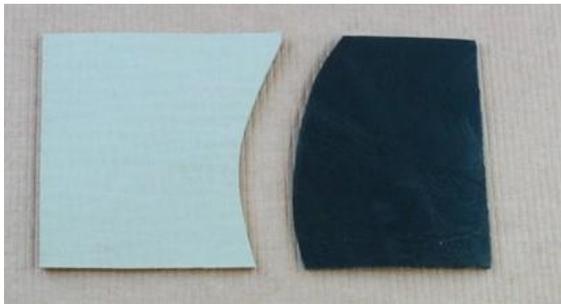


写真-5a パッチつなぎ つなぐ前

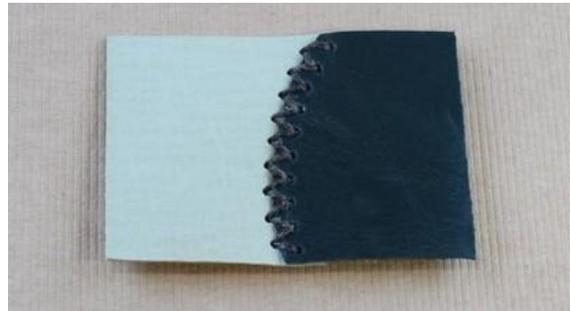


写真-5b パッチつなぎ つないだ前面



写真-5c パッチつなぎ つないだ裏面

写真-6 に、パッチつなぎを用いた作例を示す。交差つなぎなどと併用することで、表情豊かなポーチなどを作ることができると考えている。



写真-6 パッチつなぎの作例

※このテクニカルメモの著作権は、インターネットサイト「アズパパの屋根裏部屋」の管理者であるアズパパにあります。

※このテクニカルメモは、非営利的な目的で使用する場合に限り、自由に複製・配布することができます。

※「アズパパの屋根裏部屋」ホームページ

<http://azupapayaneurabeya.web.fc2.com/>



ホームページの QR コード